

1. 色彩景観形成の基本コンセプト

岸和田市の風土の色は、自然の豊かな恵みに包まれながら、長い年月をかけて伝統的なまちなみや祭りなどのそこに住む人々の営みから培われてきました。そしてこれらの色彩は、岸和田らしいまちなみ景観になくてはならない色彩として今でも地域に根づいています。

このことから、岸和田市の色彩景観形成の基本コンセプトと誘導方針を以下にとりまとめました。

基本コンセプト	人と自然の営みが息づく“あじわい豊かな”色彩景観の創出	
誘 導 方 針	温もりと風格のある色彩を基調とします	伝統的な自然素材の暖色系（黄赤～黄）や無彩色（白、灰、黒）の色を基調とし、城下町としての風土に根ざした情緒ある色彩景観を守り育てます。
	低彩度の穏やかな色彩でまとめます	山の緑やため池の自然景観や、灰色の和瓦が連なるまちなみ景観から突出するような色味の強い色は避け、四季の移り変わりや、だんじり祭りをはじめとする人々の生活の営みが美しく映える彩度をおさえた穏やかな色彩景観を形成します。
	地区の特性を反映した色彩を表現します	「臨海景観区」「旧市街・歴史景観区」「沿道型市街地景観区」「新市街地住宅景観区」「里の景観区」「自然緑地景観区」の6つの景観区の特徴を考慮し、それぞれの地区の個性や変化が柔らかく感じられる色彩景観を形成します。

2. カラーフレームの構成

（1）カラーフレームの構成

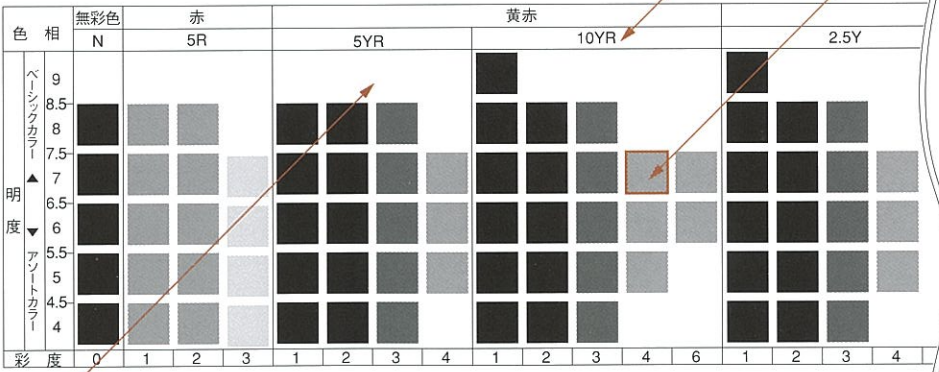
カラーフレームでは、建築物や構造物の新設や補修の際の色彩を決定するための手法として、これらの色彩を「基調色（ベーシックカラー／アソートカラー）」と「強調色（アクセントカラー）」に大別し、景観特性や施設特性にもとづいた適用範囲や色彩の考え方、色彩範囲を示しています。

また、前章で示した「色彩景観の基本的とらえ方」は色彩景観づくりのための手引き書となりますので、これらも色彩選定の参考にしてください。

基 調 色	秩序形成に向けての色彩群で、建築物や構造物の大きな面積に使用します
（ベーシックカラー） （アソートカラー）	・まとまりのある色彩景観を創出するためには、基調色の調和が重要となります。色彩景観を構成する主要な要素である「建築物の壁面」「屋根」「舗装」「ストリートファニチュア」の色彩手法をとりまとめています。
強 調 色	変化・魅力づけのための色彩群で、建築物や構造物の小面積に使用します
（アクセントカラー）	・地域らしい魅力的な色彩景観を演出するために、建築物や構造物全般の色彩手法をとりまとめています。

(2) カラーフレームの活用

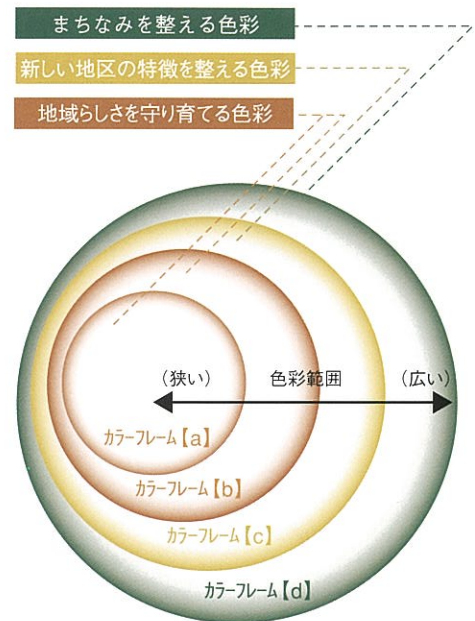
カラーフレームは、「建築物の壁面」「屋根」「舗装」「ストリートファニチュア」「アクセントカラー」の順に設定していますので、色彩を選定する際には、以下に示したような方法で活用して下さい。

適用地区	○目指していきたい色彩景観の特徴に応じて、カラーフレームを段階別またはタイプ別に分類しています。各カラーフレームに適用する地区を把握します。
色彩の考え方	○各カラーフレームの色彩の考え方を把握します。
色彩範囲	●「建築物の壁面」 - マンセル値をベースとしたマンセル色票（色見本）を、一覧表でとりまとめています。（一覧表は本マニュアルの最終ページです。） - ベーシックカラーは、アソートカラーより高明度を基本としています。 ▼建築物壁面のカラーフレーム一覧 - 誘導していきたい範囲を4段階に設定しています。 色見本は、色彩選定の参考にして下さい。（色見本以外にも多くの色が含まれています。） - 使用頻度の高いと思われる色相を中心としています。 表示されていない色相を検討する場合は、両側の色相の色彩範囲を参考して下さい。  ・色見本が貼付されていない色彩範囲を使用する場合は周辺環境との調和に充分注意して下さい。 ※特に寒色系（黄緑（GY）～赤紫（RP））は充分な注意が必要です。
カラーサンプル	○マンセル色票やマンセル値による色彩範囲の中には、かなり多くの色彩が含まれています。 このため、設定した色彩範囲内の色の傾向がイメージしやすいようにカラーサンプルを貼付していますので色彩選定の参考にしてください。 ○アクセントカラーは、地区の特性に応じてさまざまな色彩が考えられますが、色彩選定の一例としてカラーサンプルを貼付しています。 ○マンセル値に＊印のついているカラーサンプルは、建築物壁面のカラーフレーム一覧にも貼付しています。

3. カラーフレーム

● 建築物の壁面（色彩景観の主要な構成要素です）

- ・ある程度絞り込んだ色彩範囲からある程度幅を持たせた色彩範囲までをカラーフレーム【a】～【d】の4段階に設定しています。（右図参照）
- ・適用地区は、『岸和田市都市景観形成基本計画』で抽出されている「重点整備地区（都市型／自然調和型／歴史・伝統保全型）」、「重点整備地区を除く歴史・伝統保全地区」、それ以外の市全域を「一般地区」として分類し、各景観特性に応じてカラーフレームを設定しています。「重点整備地区以外の歴史・伝統保全地区」は、岸和田らしさが感じられる城下町や街道、旧集落が対象となります。
- ・適用建築物は、まちなみ景観の先導的役割を担う「公共建築物」と「大規模建築物」に重点を置きますが、地区の特徴を積極的に“守る、育てる、整える”ために、重点整備地区と重点整備地区以外の歴史・伝統保全地区では「住宅」も対象としています。



● カラーフレーム【a】 ……地域らしさを守り育てる（公共建築物／大規模建築物）

最も地域らしさが感じられる城下町、旧集落の歴史的なまちなみ景観や、山やため池や河川の自然の景観を守り育てていくために、積極的に使用していきたいカラーフレームです。

適用地区	○重点整備地区 (自然調和型) ・春木川周辺地区 ・久米田池周辺地区 ・神於山周辺地区 ・牛滝山周辺地区 ・葛城山周辺地区	色彩の考え方	・基調色は明るく、低彩度の黄赤～黄系とします。 ・同一色相、類似色相の配色構成を基本とします。 ・伝統的な自然素材や風土色を基本とします。 ・アソートカラーは、ベーシックカラーよりも低明度、低位置に配色します。 ※アクセントカラーは、基調色と同一色相、類似色相で明度や彩度に差をもたせることにより、格調高い色彩景観を演出することができます。												
	○重点整備地区 (歴史・伝統保全型) ・岸和田城周辺地区 ・阿間河滝周辺地区	カラーサンプル 基調色	ベーシックカラー	 1 10YR8/0.5 2 2.5Y8/1* 3 5Y8/1* 4 10YR7/1 5 10YR7.5/1.5 6 2.5Y7/1*											
	○重点整備地区以外の 歴史・伝統保全地区		アソートカラー	 7 10YR6/1* 8 10YR6.5/2 9 2.5Y6/1.5 10 10YR5/1* 11 10YR6/2* 12 5Y6/1*											

※これらの景観に影響を及ぼす、あるいは「旧市街・歴史景観区」「里の景観区」「自然緑地景観区」に立地する公共建築物／大規模建築物は、この範囲内から積極的に色彩を選定することをお薦めします。

●カラーフレーム【b】地域らしさを守り育てる（住宅）

最も地域らしさが感じられる城下町、旧集落の歴史的なまちなみ景観や、山やため池や河川の自然の景観を守り育てていくために、積極的に使用していきたいカラーフレームです。

適用地区	○重点整備地区 (自然調和型) ・春木川周辺地区 ・久米田池周辺地区 ・神於山周辺地区 ・牛滝山周辺地区 ・葛城山周辺地区	色彩の考え方	・基調色は明るく、低彩度の黄赤～黄系とします。 (大規模建築物よりも、明度・彩度にやや幅をもたせます。) ・同一色相、類似色相の配色構成を基本とします。 ・伝統的な自然素材や風土色を基本とします。 ・黒や灰色の無彩色や、焦げ茶などの灰味の暖色系も重厚感があり、自然や歴史的なまちなみに調和します。 ※庭の樹木や草花は、アクセントカラーとしてまちなみに潤いのある上質感を醸し出します。													
	○重点整備地区 (歴史・伝統保全型) ・岸和田城周辺地区 ・阿間河滝周辺地区		カラーサンプル 基調色	ベーシックカラー												
	○重点整備地区以外の 歴史・伝統保全地区	アソートカラー														

※これらの景観に影響を及ぼす周辺の住宅や「旧市街・歴史景観区」「里の景観区」「自然緑地景観区」の住宅は、この範囲内から積極的に色彩を選定することをお勧めします。

●カラーフレーム【c】新しい地区の特徴を育てる（公共建築物／大規模建築物／住宅）

新しい地区の特徴を育てるために、積極的に使用していきたいカラーフレームです。

適用地区	○重点整備地区（都市型） ・ 岸和田旧港再開発地区 ・ 岸和田駅周辺地区 ・ 国道26号沿道地区 ・ 東岸和田駅周辺地区 ・ 岸和田コスモポリス地区	色彩の考え方	・ 基調色は低彩度とし、できるだけ黄赤～黄系を使用することを基本とします。 ・ アソートカラーは、ベーシックカラーよりも低明度、低位置に配色します。 ・ 類似色相、類似トーンの配色構成を基本とします。 ※ 基調色との色相差や、トーン差のあるアクセントカラーを用いることにより、施設の個性や地区イメージを演出することができます。															
			カラーサンプル	基調色	ベーシックカラー													
					アソートカラー													

※重点整備地区周辺や「沿道型市街地景観区」「新市街地住宅景観区」の公共建築物／大規模建築物／住宅は、この範囲内からできるだけ色彩を選定することをお勧めします。

●カラーフレーム【d】まちなみを整える（公共建築物／大規模建築物）

市全域のまちなみから突出した色彩を取り除き、美しい色彩景観を整えるため、重点整備地区等の特徴的な景観を有する地区よりも色彩範囲の幅をもたせた一般地区のカラーフレームです。

適用地区	○一般地区（「重点整備地区」と「重点整備地区以外の歴史・保全地区」を除く市全域）		
景観区	色彩景観イメージ	色彩の考え方	カラーサンプル
臨海景観区	海への眺望や親水空間を考慮した「明るく、さわやかな」色彩景観	・基調色は、低彩度のカラーフレーム【d】を使用します。 ・類似色相・類似トーンを基本とします。	
旧市街・歴史景観区	岸和田城周辺の歴史的なまちなみになじんだ「穏やかで、風格のある」色彩景観	・基調色は、カラーフレーム【d】の使用をできるだけ避け、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【a】、【b】を積極的に使用します。 ・伝統的な自然素材を積極的に使用します。 ・類似色相を基本とします。	
沿道型市街地景観区	都市的な機能を活かした「シンプルで、落ち着いた」色彩景観	・基調色は、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【c】をできるだけ使用します。 ・カラーフレーム【d】を使用する場合は、周辺との調和に十分配慮します。 ・類似色相・類似トーンを基本とします。	
新市街地住宅景観区	新旧のまちなみとの調和や、ため池や山の緑になじんだ「快適で、親しみやすい」色彩景観	・基調色は、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【c】をできるだけ使用します。 ・カラーフレーム【d】を使用する場合は、周辺との調和に十分配慮します。 ・類似色相・類似トーンを基本とします。	
里の景観区	旧集落や、田園風景になじんだ「ナチュラルで、深みのある」色彩景観	・基調色は、カラーフレーム【d】の使用をできるだけ避け、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【a】、【b】を積極的に使用します。 ・伝統的な自然素材を積極的に使用します。 ・類似色相を基本とします。	
自然緑地景観区	旧集落や、山林にとけ込む「ナチュラルで、深みのある」色彩景観	・基調色は、カラーフレーム【d】の使用をできるだけ避け、低彩度の黄赤～黄系を基本としたカラーフレーム【a】、【b】を積極的に使用します。 ・伝統的な自然素材を積極的に使用します。 ・類似色相を基本とします。	

※・英数字はカラーフレーム【a】【b】【c】のカラーサンプルと対応（P.9～10参照）
・上段：ベーシックカラー／下段：アソートカラー

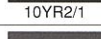
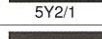
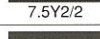
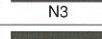
※一般地区の色彩範囲はカラーフレーム【d】までを対象としますが、景観区の特徴を育てるために、各景観区の色彩の考え方に対応したカラーフレームから色彩を選定することをお薦めします。

●屋根（眺望景観の主要な構成要素です）

「旧市街・歴史景観区」「里の景観区」「自然緑地景観区」で積極的に色彩誘導します。

○色彩範囲

〔色相〕 N／5R～10Y 〔明度〕 5以下 〔彩度〕 3以下

色彩の考え方	歴 史 ・ 保 全 地 区	・和瓦をはじめとする無彩色の和瓦を積極的に活用します。 ・無彩色や暗い灰味の焦げ茶色を基調とします。	カラーサンプル				
	一 般 地 区	・無彩色や低・中明度、低彩度の暖色系を基調とします。					

●舗装（色彩景観の基盤となる構成要素です）

まちなみをささえる安定感のある色彩とします。

○色彩範囲

〔色相〕 N／5R～10Y 〔明度〕 2～7 〔彩度〕 3以下

色彩の考え方	一般地区	・中明度、低彩度の暖色系を基調とします。 ・石材等の自然素材を活用します。 ・周辺の建築物や構造物との調和を図ります。	カラーサンプル					
	公園緑地	・中明度、低彩度の暖色系を基調とします。 ・木材やレンガ、石材等の自然素材を活用します。 ・彩度は、一般地区よりもやや幅をもたせます。						

●ストリートファニチュア（色彩景観の基盤となる構成要素です）

まちなみの基盤となるストリートファニチュアが対象です。

○色彩範囲

〔色相〕 N／5R～10PB 〔明度〕 3～7.5 〔彩度〕 3以下

色彩の考え方	パーゴラデッキ等	・緑やまちなみになじむ低～中明度、低彩度を基調とします。 ・大型構造物の基調色は、できるだけ暖色系をういます。	カラーサンプル				
	ベンチくず入れ等						
	電話ボックス街路灯フェンスボラード等	・低明度、低彩度を基調とします。					

●アクセントカラー（地域らしさを演出する色彩です）

まちなみに地域の個性や魅力づけを図ります。

色彩の考え方	・建築物は、基調色とのバランスを考慮しながら、手摺や扉部、窓枠などのポイントとなる素材や部位に使用します。 ・ストリートファニチュアは、ポイントとなる素材や部位に活用します。構造物そのものをまちのアクセントとして演出する場合は、煩雑なイメージを与えないよう周辺環境との調和に十分な配慮が必要です。 ・単一色を利用する場合は、シンプルな演出効果が得られますのでお薦めします。多数色は、トーン調和を基本とします。	カラーサンプル					
							